



東アジア文明研究センター（フランス）

シャルロット・フォン・ヴェアシュア
（フランス国立高等研究院 教授）

概要

東アジア文明研究センター（CRCAO, Centre de recherches sur les civilisations de l'Asie orientale）は、フランス国立科学研究所（CNRS）のなかの、中国、日本、チベット研究の3つの研究部を併合して、2006年に設立されました。CRCAOは、これらの3つの文化圏が主要な研究対象ですが、より広い範囲での研究活動にも開かれており、東アジア諸国に共通する文化遺産を軸とした広範囲の研究事業を進めています。

CRCAOの研究活動は、学際的・多様な学問分野における古代から現代までの各時代を網羅しています。それらの卓越した研究領域は宗教、歴史、芸術、文学、そして文学や古典の伝承を含んでいます。特に古代資料（敦煌文書等を含む文書や、図像、考古資料）の専門的解説知識を通じて国際的に評価されています。

研究員

東アジア文明研究センター（CRCAO）は、約50名の常任研究員（内、中国専門研究者22名、日本専門研究者22名、そしてチベット専門研究者6名）と約40名の外部研究員で構成されています。加えて、60名余りの博士課程学生、ポストドクター、そしてアジア、ヨーロッパ、アメリカの研究機関からの研究者もまた本研究センターに協力し研究に関わっています。

CRCAOの常任研究員は、フランス国立科学研究所（CNRS）、フランス国立高等研究院（EPHE）、パリ・ディデロ（パリ第7）大学の三機関に属する教官と研究技師で構成されています。セミナー、シンポジウム、ワークショップ等の事業や共同研究プロジェクトと協同出版プロジェクトにおいて互いに能力や技術を提供しあいながら共同研究を進めています。

現在、所長はアニック・ホリウチ、副所長はエリック・トロンベールが務めています。

研究機関

東アジア文明研究センター（CRCAO）の研究活動は

フランス国立科学研究所（CNRS）、フランス国立高等研究院（EPHE）、パリ・ディデロ（パリ第7）大学、コレージュ・ド・フランスという四つのフランスの代表的な人文科学研究機関によって支えられています。

CRCAOは、コレージュ・ド・フランス（パリ第五地区）の別館内に設置されており、CRCAOが購入したすべての資料は、コレージュ・ド・フランス東アジア研究所の各専門図書館に保管されています。

事業内容

CRCAOは、国際的に組織された独自の十余りの研究プログラムを実施しています。例として中国宗教建築におけるインド・チベットの影響の研究、ベルナール・フランク・コレクションにおける御札（日本各地の寺社のお守り札）の研究、仏・英・中・日 農業技術用語集の編纂などがあげられます。

CRCAOはまた、翻訳および翻訳技術の進展に努めています。多数の出版社の支援を受けながら、中国の古典や日本の文学と歴史史料の翻訳事業を進めております。また、オンラインでの多言語出版物 *Revue d'études tibétaines* (RET) の編集や *Revue d'Etudes mongoles et sibériennes, centrasiatiques et tibétaines* (EMSCAT) の刊行に協力しています。



CRCAOの共同研究の成果。日本の研究者も協力して編纂された『京都歴史地図』（B5版 528頁、2008）



CRCAOの研究室